

単元デザイン FIRST STEP —小学校外国語科—

1 単元デザインは何のため?

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元（複数単元）の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 単元デザインの手順と各段階のポイント

*単元ゴールから逆向き設計(バックワードデザイン)で、1時間ごとの授業につながりをもたせながら単元をデザインします。

単元デザインの手順に沿って、各段階のポイントを押さえているか□に✓を付けて確認しましょう。

※「逆向き設計(バックワードデザイン)」…目指す児童の姿をゴールとして、必要な題材や言語活動を考え、単元を組み立てる考え方。

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

- 学習指導要領の目標や内容、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編を踏まえている。
- 児童の実態や前単元までの学習状況を踏まえている。
- 「*CAN-DO リスト」に基づいている。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確である。
- 相手意識をもち、コミュニケーションの楽しさを実感できる活動を設定している。

③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、単元の評価基準(ルーブリック)を設定します。

- 観点別に目指す児童の姿を具体的に考えている。

④ 単元ゴールの言語活動に向けた*ステップアップの言語活動を各時間に設定します。

- 言語材料について理解したり練習したりするための指導(チャンツやゲームなど)とは区別している。
- ※「ステップアップの言語活動」…単元ゴールの言語活動に向けて、児童がステップアップしていくように設定された各時間の言語活動のこと。

⑤ 各時間に行う言語活動等を配列し、指導と評価の計画を作成します。

- 単元の1時間目から言語活動が授業の中心となるように設定している。

上記の手順を踏まえ、単元デザインの具体(例)を以下に示します。



単元デザインの具体(例)

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

学習指導要領やその解説と照らし合わせながら、当該単元が年間計画のどこに位置付けられているかを確認します。「CAN-DO リスト」や取り扱う題材、言語材料、児童の実態などを踏まえ、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、単元の目標を設定します。

【具体例】 6年「Summer vacation」

題材は、夏休みの思い出。

“I go to…”と“I went to…”の違いに気付くことができるといいな。

「CAN-DO リスト」における目標は、「夏休みの思い出を発表することができる」になっているな。

夏休みの思い出について、友達に質問をしたり、質問に答えたりして、友達のことを知ることができるといいな。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力

夏休みの思い出について、友達に質問をしたり、質問に答えたりする。

単元の目標

お互いのことをもっと知るために、夏休みの思い出や感想などについて、質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。また、夏休みの思い出について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

※ 本事例では、「話すこと [やり取り]」に特化して説明します。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

単元ゴールの言語活動は、授業づくりにおいて根幹をなす最も重要なものです。次の4つの視点を踏まえて、単元ゴールの言語活動を設定しましょう。

単元ゴールの言語活動を設定する4つの視点

- 伝え合う目的や必然性がある。
- 相手意識をもって取り組むことができる。
- 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- 伝え合うことの喜びや意義を見出すことができる。

友達の夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう。

III 「本物」のコミュニケーション

I 伝え合う目的や必然性

Bさんは夏祭りに行ったと言っているから、何を食べたか聞いてみよう。

What did you eat there?

I ate shaved ice.

夏祭りのことを聞いてもらえてうれしいな。Aさんに夏祭りで食べた物のことを知ってもらえてよかった。

IV 伝え合うことの喜びや意義

ぼくは、Aさんに何を尋ねようかな。

II 相手意識

II 相手意識

直山 木綿子 監修 「小学校外国語教育の指導と評価」p.38を基に作成

上記の4つの視点を踏まえ、単元ゴールの言語活動を以下のように設定しました。

題材	内容
友達の夏休みの過ごし方を知るために、インタビューをしよう。	お互いのことをもっと知るために、夏休みの過ごし方について尋ねたり答えたりする活動に取り組む。その後、やり取りをした内容を基に夏休み思い出絵日記を作成する。



③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、単元の評価基準（ルーブリック）を設定します。

評価場面となる活動（単元ゴールの言語活動）に取り組む児童の姿を思い浮かべ、「おおむね満足できる」状況（b）と評価できる状況を具体的に文章に表します。その後、「十分満足できる」状況（a）と評価できる状況を検討し、記述します。

〔評価基準（ルーブリック）の例〕

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	“How was your summer vacation?”の表現や“I went to~/enjoyed~/ate~/ It was~.”などの表現を理解し、それらを正しく用いて、言いよどむことなく、質問をしたり答えたりしている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、相手によく分かるように情報を加えたり、相手に質問したり答えたり、感想を言ったりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、相手によく分かるように情報を加えたり、相手に質問したり答えたり、感想を言ったりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
b	時折言いよどんだり、一部誤りが見られたりするが、“How was your summer vacation?”の表現を用いて質問をしたり、“I went to~/enjoyed~/ate~/ It was~.”などの表現を用いて答えたりしている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、質問したり質問に答えたりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	お互いのことをもっと知るという目的に応じて、夏休みの思い出について、質問したり質問に答えたりしながら、互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力を評価するための言語活動や評価基準（ルーブリック）を明確に設定すると、単元を通して教師が指導すべきことも明確になります。また、妥当性、信頼性を備えた評価を行うために、児童の実態を踏まえた上で、学年の教師で話し合って作成し、共通理解を図ることが大切です。

④ 単元ゴールの言語活動に向けたステップアップの言語活動を各時間に設定します。

単元ゴールの言語活動に向けて、各時間にステップアップの言語活動を設定します。その際、「言語活動を通して」資質・能力を育むという外国語科の目標を踏まえ、単元ゴールの言語活動に向けて、ステップアップの言語活動を塗り重ねていく「漆塗り型」での指導を展開することが大切です。

単元デザインの在り方

言語材料を身に付けるための練習後、目的や場面、状況などに合わせて活用するという順序立てて学習を積み上げていく「ブロック型」の指導展開

【これまでの外国語活動・外国語科のイメージ】



実際のコミュニケーションの中で言語材料を活用しながら単元ゴールの言語活動に向けて必要な力を身に付けていくことを目指す「漆塗り型」の指導展開

【「言語活動を通して」求められる資質・能力を育成するこれからの外国語活動・外国語科のイメージ】



⑤ 各時間に行う言語活動等を配列し、指導と評価の計画を作成します。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力に迫るために、④で示した「漆塗り型」での指導展開を意識しながら、効果的に言語活動等を配列することが大切です。また、次に示す「指導と評価の計画を作成する際のポイント」を踏まえ、指導と評価の計画を作成しましょう。単元における評価場面の設定等については、「学習評価の進め方」及び「学習評価 FIRST STEP」を御参照ください。

指導と評価の計画を作成する際のポイント

- ① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。
- ② 単元を通して、単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返し行います。
- ③ 単元を通して、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。
- ④ 単元末に、単元ゴールの言語活動を設定します。
- ⑤ 単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

上記のポイントを踏まえた単元の指導と評価の計画（例）を以下に示します。

単元の指導と評価の計画（例）

時	目標(◆)活動内容(○)	知	思	主	評価(・) (評価方法)
1	◆夏休みにしたことを伝える表現について理解することができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(夏と言えば) ○先生たちの夏の思い出を聞く。 ○Plan and Reflectionシートで、単元ゴールへの見通しをもつ。 ○夏にしたことを伝える表現を知り、聞いたり、言ったりする。				・本時では、[記録に残す評価]は行わないが、目標に向けて指導を行う。 [指導に生かす評価]
2	◆夏休みの思い出を紹介する表現に慣れ親しむ。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(昨日食べたもの) ○【Let's Sing】We love summer vacation. ○キーワードゲーム(夏の思い出の関連語句)				・本時では、[記録に残す評価]は行わないが、目標に向けて指導を行う。 [指導に生かす評価]
3	◆夏休みに楽しんだこと、夏休みの思い出を尋ねたり、答えたりすることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(昨日の出来事) ○【Let's Chant】Did you enjoy camping? ○【Let's Listen】登場人物が夏休みにしたことを聞く。 ○Let's Talk 友達との夏休みの思い出(楽しんだこと、感想)を知るためのやり取りを行う。 ○【Let's Read and Write】I enjoyed~.の表現を用いて書く。				・本時では、[記録に残す評価]は行わないが、目標に向けて指導を行う。 [指導に生かす評価]
4	◆夏休みに行った場所やしたこと、食べたものの表現を用いて、夏休みの思い出を尋ねたり、答えたりすることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○Small Talk(夏休みの思い出・楽しんだこと) ○【Let's Chant】Did you enjoy camping? ○ポインティングゲーム ○【Let's Listen】登場人物が夏休みにしたことを聞く。 ○Let's Talk 友達との夏休みの思い出(行った場所、したこと、食べたもの)を知るためのやり取りを行う。 ○【Let's Read and Write】I went to~.の表現を用いて書く。		や		・夏休みに行った場所、したこと、食べたものとその感想を伝え合っている。 (行動観察・振り返りシート) [記録に残す評価]
5	◆友達との夏休みの過ごし方について、“How was your summer vacation?”の表現を用いて尋ねることができる。 夏休みの過ごし方を、“I went to~/enjoyed~/ate~/ It was~”及びその関連語句などを用いて、答えることができる。 ○Alphabet time(帯活動) ○【Let's Sing】We love summer vacation. ○Let's Talk 友達との夏休みの思い出を知るためのやり取りを行う。		や	や	評価基準(ルーブリック)参照 (行動観察・振り返りシート) [記録に残す評価]
6	○【Let's Read and Write】It was~.の表現を用いて書く。				
7	◆例文を参考に、やり取りした内容にあった語句や表現を用いて、夏休みの思い出絵日記を書くことができる。 やり取りした内容を基に、夏休みの思い出絵日記を作成する。例文を参考に書き写す。 ○Plan and Reflectionシートで、単元の学習を振り返る。			書	・やり取りした内容を、例文を参考に書き写すことができる。 (思い出絵日記) [記録に残す評価]

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。

② 単元を通して、単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返し行います(緑の枠囲み全て)。

④ 単元末に単元ゴールの言語活動を設定します。

③ 単元を通して、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。

⑤ 単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。